

# 東奥日報

2023年(令和5年)6月6日(火曜日) (16)

## 八戸

日本菌学会第67回大会(5月27、28日・熊本市)で八戸工業大学工学部工学科長の星野保教授(58)＝顔写真、日本菌学

会理事一が学会賞に輝いた。同学会の中  
高生発表では、星野教授の監修で研究  
を行った八戸工業大学第二高校3年生3人  
のチームが優秀賞を受賞。関係者は喜び  
に沸いている。(岡田圭逸)



# 菌類の低温適応研究が評価

星野教授はこれまで、北海道工業技術研究所、産業総合技術研究所などに勤務。積雪に適応した「雪腐病菌」と呼ばれる植物病原菌を中心に、菌類の低温適応に関する基礎研究と産業利用の研究を進めてきた。

2018年には「世界で初めての南極酵母を利用した低温下でも難処理排水の活性汚泥による処理法」で「第7回ものづくり日本大賞・ものづくり地域貢献賞(北海道経済産業局長賞)」を受賞している。

学会賞を受賞した研究の題名は「低温環境に適応した菌類の多様性・生理生態と利用に関する研究」。低温環境下での菌類の分類などに関する研究を進め、多様性解明と生態解明の両面で世界的にも顕著な業績を挙げた点や、菌類の生理・生態的意義を明らかにしたことが高く評価された。

星野教授は「長年の研究が評価されうれしい。以前

# 星野教授(八工大)に学会賞

住んでいた北海道に比べ北  
東北は文字に記された歴史  
が古く、気候に根差した特  
憶が継承されるよう、いわ

別な菌類が今も利用されて  
いる。高齢化が進む中、記  
立場からの研究も進めてい  
きたい」とコメントした。

## 工大二高生が優秀賞

星野教授監修 味噌玉の菌類研究



優秀賞を受賞した八工大二の(左から)相馬さん、山谷さん、千葉さん

中高生発表で優秀賞を受  
賞した八工大二高生の演題  
は「八戸市島守地区で行っ  
た味噌玉製造の再現(第2  
報)」。味噌玉の菌類の種  
類と役割について、高1の  
1回通って研究してきた成  
果を、約70人の前で発表し  
た。

相馬輝紀さんは「想定し  
ていなかった質問や助言が  
あり、もっと研究活動をし  
たいと思った」と話した。

千葉批奈さんは「昨年の学  
会はオンライン参加だった  
とそれぞれ述べた。

3人とも付属中学校から  
6年間の一貫教育を行う一  
貫コースに所属し、大学進  
学を目指している。相馬さ  
んは「大学でも自分の考え  
をはっきり伝えられるよう  
になりたい」、千葉さんは  
「島守地区の皆さんとの関  
わりで学んだことを今後に  
生かす」、山谷さんは「学  
会で発表できた体験を大学  
生になっても生かしたい」

※「この画像は該当ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」